

### 第3章 河川整備計画の目標

#### 3.1 白川の望ましい姿

白川の望ましい姿として、次の3つを掲げます。

#### 安全で親しめる川づくり

白川流域<sup>りゅういき</sup>では熊本市街部を中心に大水害をもたらした昭和28年6月26日(1953.6.26)の洪水をはじめとして、昭和55年8月30日(1980.8.30)の洪水では熊本市で、平成2年7月2日(1990.7.2)の洪水では阿蘇町、一の宮町、熊本市で浸水被害<sup>しんすいひがい</sup>が発生し、平成11年9月24日(1999.9.24)の台風では白川河口部で高潮被害<sup>たかしおひがい</sup>が発生しています。そのため、沿川の市街部を中心として、洪水や高潮に対して安全な川づくりを進めていくことが切望<sup>せつぼう</sup>されています。また同時に様々な生物が棲<sup>す</sup>み、子どもたちが水辺でたわむれ、人々の心を癒<sup>いや</sup>してくれる空間になることが期待されています。

こうした多様な社会的要望<sup>せうきょう</sup>に応えるため、洪水や高潮に対する安全性を早急に確保しつつ、子どもたちが川に親しめる水辺空間<sup>みずべくわん</sup>、地域住民と川とのふれあいの空間となるように、『安全で親しめる川づくり』を目指します。

#### 多様な動植物が生息・生育する川づくり

白川には上流から河口まで多種多様な動植物が生息<sup>せいそく</sup>・生育<sup>せいいく</sup>しています。

白川は火山性流域<sup>かざんせいりゅういき</sup>であるため、洪水時には多量のヨナや土砂が流出して、少なからず動植物の生息・生育環境に影響を与えています。この影響を抜本的に改善することは出来ませんが、ヨナや土砂の影響を受けるといった特異な自然環境<sup>きようじゆ</sup>を享受しつつも可能な限り生息・生育環境の改善に努め、『多様な動植物が生息・生育する川づくり』を目指します。

#### 上流<sup>じょうりゅう</sup>から河口まで、流域が一本でつながる川づくり

白川はその地形的・自然的特性<sup>ちけいてき しぜんてきとくせい</sup>を考慮し、流域全体<sup>りゅういきぜんたい</sup>でバランスよく段階的な治水対策<sup>ちすいたいさく</sup>を進める必要があります。環境面<sup>かんきようめん</sup>についても、自然の営みを守り、動植物の生息・生育環境の保全や自然の表情豊かな河川環境<sup>かせんかんきよう</sup>を目指すには、ある部分だけを個別に計画するのではなく、流域全体として目指すべき方向を定めた上で、それぞれの部分をどのように保全・整備するかを計画する必要があります。

このように、白川は上流から河口までひとつの川という事を念頭に置き、『上流から河口まで、流域が一本でつながる川づくり』を目指します。